

令和7年度施政方針について

佐久間 儀郎



〔質問〕少子高齢化と人口減少対策を伺う。

〔答弁〕〔市長〕移住・定住の促進や企業誘致の加速は重要課題。若者にとって魅力あるまちづくりの推進、結婚、妊娠・出産、育児の切れ目ない支援の強化が必要。地域包括ケアシステムの充実を目指し、市政課題を先送りすることなく、積極果敢に挑戦を続けていく。

〔質問〕白石川サッカー公園サッカー場の大規模改修の要望にどう対応するか伺う。

〔答弁〕〔市長〕人工芝の経年劣化が見られる。今年度は公園施設長寿化計画の見直し時期

であり、事業費の平準化を考慮しながら他の都市公園と同様、改訂後の計画に基づいた改修を行なうていきたい。

〔質問〕経済協力開発機構(OECD)の国際的教育評価と個別最適化学習のためのAIモデル構築事業に参加協力するが、本市の教育上のメリット、効果を伺う。

〔答弁〕〔教育長〕今後の教育改革において大変重要な取り組みと認識。AIを活用することで、より客観的かつ公平な評価が可能となり、児童生徒一人一人の強みや課題を的確に把握するとともに、短時間での評価が可能となる。

AIを活用した学習評価がこれからの教育現場において重要な役割を果たすものと期待

したい。

〔質問〕おもしろい市場に加えて(仮称)道の駅しろいしにおいても農業生産者や物産販売者の販路確保と拡大が求められる。「みのりラボ」のみのりファクトリーと連携して6次産業化、ブランド化を推進すべきと考えるが、見解を伺う。

〔答弁〕〔市長〕(仮称)道の駅しろいし整備事業では、株式会社サンアメニティが代表企業を務める株式会社しろいしグロウパークと事業契約を締結。しろいしサンパークとの連携は図りやすいと考える。運営を進めるにあたり、「みのりラボ」「みのりファクトリー」を含む地元企業との連携は欠かせないことから、商工会議所、株式会社しろいしグロウパークと連携して取り組んでいきたい。

令和7年度施政方針について

高子 秀明



〔質問〕令和6年度は市制施行70周年記念事業、令和7年度は白石城開門30周年、また、10月に開催される第48回全国育樹祭と2力年にわたるしろいしを全国に知らしめる絶好の機会と捉えていると察する。これを契機に、本市活性化のため、本市の魅力を全国にPRし、「人と地域が輝き、ともに新しい価値を創造するまちしろいし」をいかに実現するか、市長の展望を伺う。

最も期待するのは市民のシビックプライドの醸成である。

ふるさとに誇りと愛着を持っていただけでは、地域に関わろうとする方も増え、地域力は向上し、ふるさとの魅力を見つめ直すことで新しい価値も生まれてくる。本市の魅力を積極的に発信し、国内外多くの方に白石を知っていただくとともに、市民の皆さんと本市の魅力を再発見し、ふるさとへの誇りと愛着をより強く感じる契機にしていきたいと願っている。

〔質問〕国・県との連携を強化し、これからの予測困難な時代に、的確で適正な行財政運営に取り組むため、副市長2名体制で臨むことは、人口減少と少子高齢化が進む本市におい

て、市民に対してどのように理解を得ていくのか、市長の見解を伺う。

〔答弁〕〔市長〕全国の特別区を含む815市のうち、約4割の325市区で副市長の定数を2以上としており、県内でも14市のうち半数の7市が副市長定数を2以上としている。それぞれの市町が人口規模にかかわらず、必要に応じ副市長定数2以上としており、本市が副市長を2人とするのは決して特異なことではない。

今後、加速する人口減少と少子高齢化の深刻さをご理解いただき、多くの市がそれぞれの事情と必要に応じて副市長を2人以上置いている状況をご理解いただければ、本市が副市長を2人とするについて、市民の皆さんにご理解いただけている。